

## 20. <sup>67</sup>Ga シンチグラフィが有用であった腸間膜悪性リンパ腫の1例

島谷 康彦 岩宮 孝司 谷川 昇  
周藤 裕治 遠藤 健一 西尾 剛  
太田 吉雄 (鳥取大・放)

症例は43歳男性。上腹部痛とともに左側腹部に腫瘍を触知し、精査入院となる。入院時検査所見では検血、生化に異常なく、CTで左側腹部腹壁近傍に径約8×4cmの腫瘍が存在し、胃周囲、腸間膜、大網、肝門索列、脾周囲、ダグラス窩は軟部組織より低濃度の陰影で占められていた。<sup>67</sup>Ga シンチグラム48時間後像では、肝下部から両側側腹部にかけて、肝、脾周囲、ダグラス窩に強い集積あり、腹膜播種をともなった悪性腫瘍が考えられた。手術の結果は空腸腸間膜内に充実性腫瘍があり、大網、横行結腸、ダグラス窩に広汎に広がる悪性リンパ腫であった。術後化学療法が施行され<sup>67</sup>Gaで異常集積はほとんど消失した。本例の診断、治療効果判定に対して、<sup>67</sup>Ga シンチグラフィが有用であったので報告した。

## 21. <sup>67</sup>Ga シンチグラフィで経過観察し得た neoplastic angioendotheliosis の1例

中野 覚 薄井 順子 山本 由佳  
木内 孝明 松野 慎介 川崎 幸子  
大川 元臣 田邊 正忠 (香川医大・放)  
細見 直永 (同・二内)

neoplastic angioendotheliosis の1例を経験した。症例は59歳男性で、急速に進行する痴呆と意識レベルの低下を認め、頭部CTにて急速に広がる多発性の脳梗塞が見られた。腹部CTにて腎に多発性の梗塞が見られた。胸部単純写真では両肺に多発性の結節影を認めた。TBLB 施行され上記診断を得た。両肺野に強い<sup>67</sup>Gaの集積を認めたが、脳・腎への<sup>67</sup>Gaの集積は明らかでなかった。これは、結節性の増殖を主体とした肺病変と、血管内塞栓による梗塞性病変を呈した脳・腎病変とでは、血流・腫瘍体積の違いにより、<sup>67</sup>Gaの集積程度が大きく異なったためと考えられた。肺野の<sup>67</sup>Gaの集積は化学療法により著明に改善した。

## 22. リウマチ性多発筋痛症 (PMR) の血管炎診断に Ga シンチグラフィが役立った1例

妹尾 健五 吉川 和明 杉村 和朗  
石田 哲哉 (島根医大・放)

症例は64歳の女性。両肩から上腕および大腿の疼痛、発熱を主訴に当院内科に入院した。入院後に行ったGaシンチグラフィで全身性に動脈に一致する集積を認めたため動脈炎を併発したPMRを疑い、動脈生検を施行し確定した。この診断に基づきステロイド剤を大量に投与し速やかな症状の消退を得た。PMRは本邦では稀な疾患で体幹近位筋の痛みを主症状とし、急性期炎症反応を認め、少量のステロイド治療が著効するという特徴をもっている。しかし診断基準が確定していないため除外診断を要し、また血管炎を併発した場合には大量のステロイドを必要とする。本例はGaシンチグラフィが血管炎併発PMRの診断に非常に有効であった貴重な症例である。

## 23. 悪性腫瘍と炎症巣のタリウム集積の差異の実験的検討

菅 一能 内迫 博路 清水 建策  
菅野 文め 松井美補子 中西 敬  
(山口大・放)  
神崎 竜二 山田 典將 (同・放部)  
西垣内一哉 (国立下関病院・放)

家兎下腿に移植したVX-2腫瘍30個とテレピン油および自家糞溶液の筋肉内注入により作製した27個の炎症巣でタリウムの集積動態を対比検討した。腫瘍、炎症巣ともに病変の大きさによりタリウムの集積動態が変化する可能性が示された。病変の大きさ別に腫瘍と炎症巣を対比すると、小さい病変(長径40mm以下)では腫瘍の方が炎症巣に比し早期像、遅延像ともに集積の程度が高いこと、これより大きい病変では炎症巣でも高い集積を示し、両者で集積の程度に差異がなくなるが、炎症巣の方が有意にタリウムの洗い出しが速いことが示された。